紹　介

「根圏生態解明のための研究手法の開発」推進会議の開催

村上敏文

東北農業研究センター・畑地利用部

平成17年6月1日（水）、東北農業研究センター福島研究拠点において、今年度から3年の予定で始まる、科研費プロジェクト（基盤B）の第1回推進会議が、所内オープンで開催された。会議では、村上による研究概要の説明の後（図1）、各担当者から、これまでの研究と本プロジェクトでの研究計画が紹介された。総合討議では、最終年に成果を出版しようという頼もしい意見もあれば、来年度の予算は今年度の成果に応じて配分しようといった、どこまで本気なのかわからない意見もあって、大いに盛り上がった。

研究主題は、根圏生物の生態を明らかにすることにより、新しい環境保全型農業技術開発のシーズを作ることである。例えば、根に対する土壌生物の刺激と地上部生育の関係を明らかにし、土壌環境を整える技術の基礎データを得ること等である。課題名を「～手法の開発」としたのは、根圏研究では方法論がネックなので、新手法の導入・改良・開発は必須であり、それが全員の課題をまとめる縦糸になること、新しい方法を開発できればインパクトが大きい（できなければ打撃が大きい）ことによる。課題は、大きく分けて根中心のもの（I）と、土壌生物中心のもの（II）に分かれており、それらの内容と相互の関係は、図2のようになっている。

担当者は、村上敏文（研究代表者）、中元朋実（東京大学・農学生命科学研究科）、小柳敦史（東北農業研究センター）、島野智之（宮城教育大学・環境教育実践研究センター）、笠原康裕（茨城大学・農学部）の5人で、うち2名は根研究会員である。メンバーは、これまで根または土壌生物の研究で多くの成果を上げてきたが、さらに情報や刺激を得て研究を発展させたいと、この課題を共同申請した。年齢は36～48歳、眼はかすみ、知恵も回りにくくなりつつある中年ではあるが、本課題に関しては、すでに論文発表や特許申請を行うなど、なかなかの強者揃いである。したがって、研究体制は、同じ主題を演奏しながらも、各人が自由に連携して個性を発揮できる、ジャズバンド型としている。もちろん、メンバー内だけでなく、この課題に関心のある他のプレーヤーとのセッション（共同研究）も推進したい。ジャズバンドは結構、解散が多いとか、リーダーと意見があわなくてメンバーがよくやめる、とかいう意見はさておき、アドリブあり、新基軸あり、奇想天外ありの名演奏を目指したいと思う。

図1　会議のオープニングのプレゼン（音楽付き）

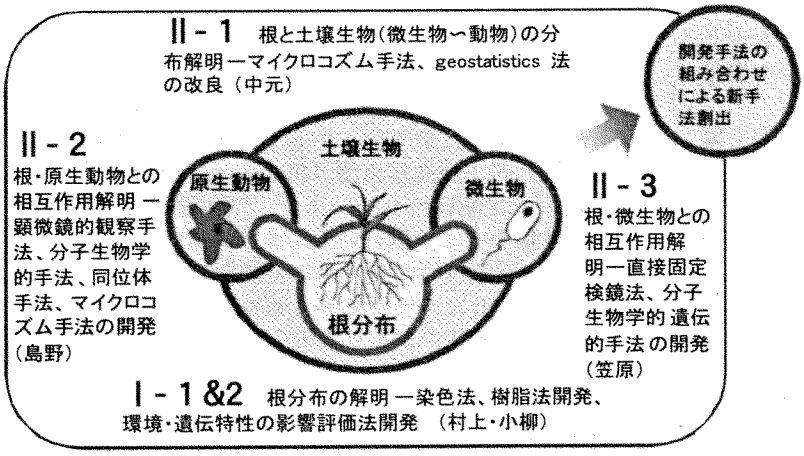

図2　各研究課題とそれらの相互関係

最後に、今回、本課題が採択されたのは、これをバランスよく分担し得る5名が集まったこと、様々な分野の方から貴重なアドバイスがあったこと、当センター・畑地利用部長をはじめ、研究所としてのバックアップがあったことが大きな要因と思う。本研究の申請に関係された方々に心よりお礼を申し上げます。

2005年8月4日受付

＊連絡先　〒960-2156　福島県福島市荒井字原宿南50　（独）東北農業研究センター畑地利用部
FAX: 024-593-2155　E-mail: durian@affrc.go.jp